

Case:3

税理士法人
中山会計



税理士法人中山会計
代表
小嶋純一氏

こじま・じゅんいち ●
2003年入所。相談しやすさNo.1を体現する税理士として顧問先の経営をサポート。2020年9月より代表に就任。

100年企業を目指し、持続可能な経営に挑戦 自分たちの活動をオープンにして お客様の相談窓口になる

『100チャレ』を掲げ、現在43もの活動を実践する税理士法人中山会計の取り組みに迫る。

創業50周年を機に、SDGs経営を開始

当社は、2017年に創業50周年を迎えた際、記念式典のテーマを、SDGsのもとに構築しました。「50周年はあくまで通過点。100周年までに自分たちに何ができるのか？ 将来に向けて、今何に取り組むか？」という視点でSDGs経営を始め、17のゴールに向けて現時点で43の取り組み

を実施しています。

SDGsをどう経営に取り入れていくかという点で、答えを持っているお客様はまだ多くありません。当社では自分たちが実践した活動をオープンにすることで、SDGs経営の身近な相談窓口という役割を担っていきたいと考えています。

●創業／1967年 ●従業員／48名 ●所在地／石川県金沢市有松2-9-18



「ささんか」で 地域の人びと との距離を 近づける

オリジナルの傘を作成し、地域の人やお客様に傘を渡す活動「ささんか」を2018年から実施。金沢の方言「傘を差しませんか(ささんか)？」から名付けた。「お客様が帰る際には、玄関から駐車場まで傘を差し掛けてお見送りすることで、距離を近づけることができていると感じます」(小嶋氏)。「悪天候から身を守るパートナー」というメッセージも込めている。



17のゴールに向けて 43のチャレンジを実施

中山会計では現在43もの取り組みに挑戦している。例えば、「4.質の高い教育をみんなに」「8.働きがいも経済成長も」を実現するため、若手職員と先輩職員がペアを組んで悩みや業務の相談ができる教育者制度を導入。また、社用車を電気自動車に変更、エントランスやトイレをバリアフリーに改装、地域の清掃活動を実施、RPAや電子契約書の積極活用など、人と環境に負荷の少ない事務所づくりを実践している。

「ささんか」には、協力企業が製作する生地が傷んでも張替えができるビニール傘を採用



100チャレは、ホームページでも公開している。ホームページ閲覧は左記QRコードから

Case:2

フェリタス
社会保険
労務士法人



フェリタス社会保険
労務士法人 代表
石川弘子氏

いしかわ・ひろこ ● 一般企業に勤めながら2003年に社労士資格取得。2004年開業。他士業と連携しながら、顧問先の人事労務を幅広くサポートしている。

職員からの要望でSDGsの取り組みを開始 持続可能性を追求した経営は 魅力的な職場づくりにつながる

2020年4月に『かながわSDGsパートナー』に登録されるなど、地域に根づいた活動を紹介。

社労士の仕事はSDGsと親和性が高い

2019年に顧問税理士から紹介されて受けた、ゲーム形式でSDGsを学ぶ研修が面白くて、事務所でも同じ研修を実施しました。すると、職員から「私たちも取り組みたい」という声が出たのです。そこで、せっかくなら『『かながわSDGsパートナー』への登録を目指そう』と活動を始めました。

また、社労士は、労働環境の整備や障害年金の支援など、仕事そのものがSDGsと親和性が高いと感じます。SDGsに取り組んでいる中小企業は少ないですが、持続可能性を追求した経営は魅力的な職場づくりにつながるため、顧問先にもそういった切り口で提案するようにしています。

●創業／2004年 ●従業員／24名 ●所在地／神奈川県厚木市旭町1-22-20 ハラダ旭町ビル6F



古民家をオフィスに改装して 快適に働ける環境を整備

古いものを活かすため、石川氏の実家をオフィスに改装。ピアノを置くなどフリースペースを充実させ、子連れでの出勤もOKに。駅前のオフィスと、好きな方に出勤できる。「ここは緑豊かな庭もあり、人間らしく働けていると感じます」(石川氏)。また、フリーデスクにすることでペーパーレスを推進。郵便物を減らすという視点で電子申請も増やしている。



職員にも好評な古民家オフィス。コミュニケーションが増え、人間関係もさらに良好になったという



障害児を持つ親に向けて 障害年金セミナーを実施



地域にある高校で、障害児を持つ保護者向けのセミナーに登壇。高校卒業後にどうやって一人で生きていくのか、社会福祉の制度として障害年金を活用できることなどを紹介している。「案件につながることは少ないですが、啓発活動で地域の役に立ちたいと考えています」(石川氏)。

障害児も通う高校で
セミナーに登壇